

1.1.5 まとめてグラウトすることの弊害

下図のように、各孔ともテンドンを設置後まとめてグラウトするといったような作業手順とした場合、掘削孔から隣接孔（既テンドン設置孔）にスライムが流入する危険性がある。

この場合、設置済みのテンドンがスライムを被るため、その後に行われるグラウトが有効に機能しないといった事故を招きやすい。そのため、各アンカーはテンドン挿入と同時に一本ずつグラウトするのが鉄則である。

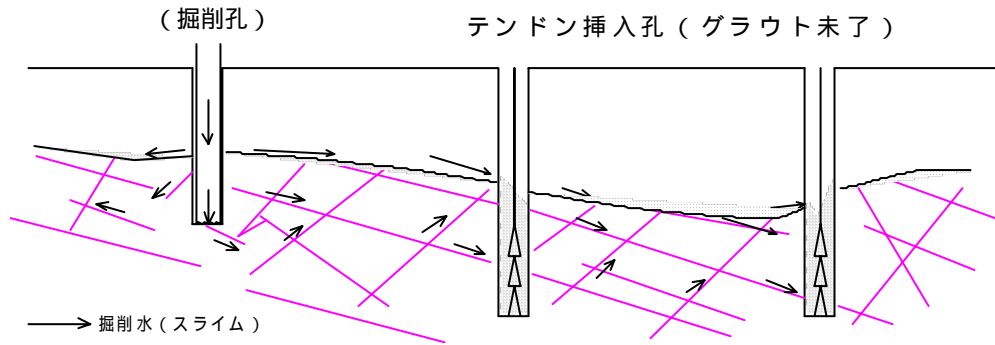


図 1.5.1 まとめてグラウトすることの弊害